

令和7年第3回吉田町議会定例会（令和7年9月1日開会）

町長の行政報告

令和7年第3回吉田町議会定例会の開会に当たりまして、町政運営の概要等についてご報告申し上げます。

7月30日の朝、ロシアのカムチャツカ半島近海で発生したマグニチュード8.8の巨大地震の影響により、太平洋沿岸の広い範囲で津波注意報が発表され、程なくして津波警報が発令されました。厳しい暑さの中、公共交通機関の乱れなど社会経済活動に様々な影響を与えるとともに、町民の皆さまの脳裏には、あの東日本大震災の記憶が蘇り、不安なときを過ごされたのではないのでしょうか。

静岡県全域にも津波警報が発令され、津波到達時刻は11時30分、予想される津波の高さは3メートルと発表されておりましたが、県内で観測された津波は、下田港の0.6メートルが最大で全国的にも津波による被害は無く、翌31日の夕方にはすべての津波注意報が解除されております。

今回の地震では幸いにも大きな津波は発生しませんでした。近年、世界規模で頻発している巨大地震のニュースを耳にすると、いつ、大津波が本町に押し寄せてきてもおかしくないという現実を認識する出来事となり、常日頃から最悪の事態を想定し、備えておくことの大切さを改めて考えさせられた次第でございます。

本町では、かねてから申し上げておりますとおり、「津波防災まちづくり」を最優先課題と位置付け、全身全霊をかけて取り組んでおります。本町が描くハード整備は着々と進み、今後は津波による浸水を一滴たりとも許さない「全周防御」の総仕上げとしまして、吉田漁港を含む住吉海岸防潮堤の整備と河川遡上の対策を、より一層のスピード感で進めてまいります。1日でも早く町民の皆さまに「安全で安心して住み続けることができる町」を提供できるよう、決して簡単な道のりではありませんが、確実に一歩ずつ前進してまいります。

こうした中、ソフト対策といたしまして、一昨日には、各自主防災会の皆さまにご協力をいただき、夜間の発災を想定した防災訓練を実施いたしました。町民の皆さまにおかれましても、「災害はいつ起こるかわからない」という意識を一層高めていただき、防災意識の向上が図られたものと感じております。

本町の「津波防災まちづくり」は、ハードとソフトの対策を一体となって進めていくことで、皆さまの生命と財産を守ることができるものでございますので、今後もソフト事業に注力してまいります。

こうした津波防災まちづくりによる「新たな安全」の構築が進む一方で、「シーガーデンシティ構想」のもう一つの柱であります「賑わいまちづくり」の取組も盛り上がりを見せております。

7月26日には、地域の事業所が主体となり、子ども向けの職業体験型イベント「伝」が開催され、10回目の開催となる今回は、過去最多の30の事業所が参加し、多くの来場者で大変賑わっておいりました。

また、8月13日には、小山城前駐車場におきまして、チャレンジショップの運営事業者が主催し、「小さな夏祭り」が開催され、約15店舗が出店いたしました。小規模ながらも、家族連れが楽しめる店が並び、温かみのある夏祭りとなりました。

さらに、8月23日の「港まつり花火大会」では、協賛企業にご協力をいただき、本町で初めてとなります、500機のドローンショーが華やかに行われ、花火の伝統技術と最先端技術が融合した光景に、会場は例年以上の大きな歓声に包まれました。

今後は、秋に県営吉田公園におきまして、3つの大きなイベントが開催されます。

1つ目は、「吉田クラフトフェア」でございまして、県内外から約130人のクラフト作家が出店し、クラフト作品を通じた交流などを楽しめるイベントでございまして。

2つ目は、「バイブズミーティング」でございまして。大型バイクの愛好家が3日間で延べ約8千人集まり、キャンプを通して親睦を深めるもので、本町では初開催となります。

3つ目は、今年で9回目の開催となる「吉田野営」でございまして、キャンプ

など吉田公園ならではの体験を通じて、地域の魅力を伝えるイベントでございます。

こうした町内外から多くの人が集まるイベントが、本町の魅力発信と関係人口創出の機会となることを期待しているところでございます。

なお、「吉田野営」の開催に合わせ、「トウクトウクで巡る防潮堤ツアー」を実施し、景色を楽しみながら、防潮堤の高さを体感していただく予定でございます。

本町といたしましては、「賑わいまちづくり」のパートナーとして、こうした民間団体による多様なイベントの取組をサポートしていくとともに、町の玄関口としての東名吉田インターチェンジ周辺の整備や、漁港多目的広場、県営吉田公園周辺の整備を進め、先に述べました、「津波防災まちづくり」と一体となり「シーガーデンシティ構想」を力強く推進してまいります。

それでは、令和7年度に入り、5か月が経過いたしました本年度の主な事業の進捗状況につきまして第6次吉田町総合計画の施策体系に沿ってご報告申し上げます。

災害に強く安全・安心に暮らせるまちづくり

■住吉海岸の防潮堤整備事業

冒頭でも触れましたが、本年度から住吉海岸の防潮堤整備に本格的に取り組み、町内に津波を一滴も浸水させない全周防御の総仕上げに取り掛かってまいります。

現在、盛土工事に着手するための準備工としまして、工事用道路の設置と支障木などの伐採を行っているところでございます。

工事用道路が完成いたしましたら、いよいよ海側への工事に着手していくこととなりますので、土砂の運搬が始まる9月下旬頃から着手できるよう、進めてまいります。

町民の皆さまの確固たる安全を確保するべく、防潮堤の早期完成を目指し、引き続き、国や県と連携して取り組むとともに、地元の皆さまのご理解をいただきながら着実に事業を進めてまいります。

■地域防災訓練

一昨日の8月30日に、牧之原警察署や地元消防団などの関係機関にご協力をいただきながら、夜間参集の形式による地域防災訓練を初めて実施いたしました。

昼間とは異なる環境や雰囲気の中で訓練を行い、当日は事故もなく、各家庭では非常持出品や避難経路の確認、自主防災組織では夜間における危険箇所の把握や注意すべき事項の洗い出しなどに取り組んでいただきました。

今後もこうした訓練を継続し、いつ発生するか分からない大規模災害に備え、関係機関の連携強化や町民の防災意識の高揚を図り、地域防災力の向上に努めてまいります。

■木造住宅耐震化プロジェクト「TOUKAI-0」

これまでもご報告しておりますとおり、本年度はプロジェクトの最終年度となりますことから、県や静岡県建築士会と連携し、戸別訪問により助成制度や耐震の必要性について説明するなど、耐震補強事業の推進を強化しているところでございます。

今後も引き続き、戸別訪問を通して耐震化の促進に努めてまいります。

■治水対策推進事業

二級河川坂口谷川流域の浸水被害軽減対策につきましては、「二級河川坂口谷川水災害対策プラン」に基づき、債務負担行為を活用して宮裏川河口部の3号ポンプ場の増強に向けた工事を進めているところでございます。

現在は、ポンプ設備の据付がおおむね完了いたしましたので、周辺水路の設置と舗装等の付帯工事を進めているところでございます。

宮裏川流域の浸水被害を軽減するため、早期完成を目指して事業を進めてまいります。

また、第2回吉田町議会定例会においてお認めいただいた可搬式排水ポンプ設備の購入につきましては、8月上旬に納品され、既に住吉川の河口部に配備したところでございます。

この可搬式排水ポンプを機動的かつ効果的に活用し、浸水被害の軽減を図ってまいります。

豊かな自然と共生するまちづくり

■上水道事業

上水道の整備につきましては、「社会資本整備総合交付金」を活用し、第2配水池から避難所までの配水本管の布設替え1件と老朽管の布設替えなど2件の工事を進めているところでございます。

また、水道水の安定的な供給を維持するため、大幡地内の第3水源において予備ポンプの設置工事を進めており、それぞれ順調に進捗している状況でございます。

■公共下水道事業

公共下水道事業の施設整備につきましては、社会資本整備総合交付金を活用し、片岡地区において債務負担行為1件を含む3件の管渠整備工事を進めており、年度内の完了に向けて順調に進捗しております。

浄化センターの整備につきましては、ストックマネジメント計画に基づき、3年間の債務負担行為を活用した機械設備の更新を予定しており、早期の発注に向けて準備を進めてまいります。

■吉田町公共下水道事業経営戦略の見直し

令和3年度から10年間の計画期間として策定した「吉田町公共下水道事業経営戦略」につきましては、計画期間の中間点を迎えるため、現在、見直しを進めております。また、下水道使用料の改定に向けて下水道料金等審議会を開催し、下水道経営の効率化や健全化に取り組んでまいります。

活力と魅力あふれる産業振興のまちづくり

■東名吉田インターチェンジ周辺の整備

バスターミナルの整備に係る用地取得の進捗状況でございますが、整備対象用地の一部につきまして、土地所有者や関係者の皆さまに立ち会いをしていただき、土地の境界や範囲の確認作業が終了いたしました。今後は用地測量と補償調査を行い、土地の鑑定評価を踏まえて補償金額を算定し、用地の取得に着手してまいります。

また、インターチェンジ周辺を含むシーガーデンシティ構想の施策における再生可能エネルギーの活用を検討するため、プロポーザル審査委員会を経て、8月に可能性調査業務委託契約を締結したところでございます。

なお、この事業は、国の「エネルギー構造高度化・転換理解促進事業費補助金」を活用して実施しております。

インターチェンジ周辺につきましては、シーガーデンシティ構想における町の玄関口、また重要な交通結節点でありますことから、まちづくりの重要な拠点として整備を進めてまいります。

■ふるさとよしだ寄附金

本年度で10年目を迎えるふるさとよしだ寄附金につきましては、7月末時点において、2億8,465万9,500円となっており、この寄附額は、昨年度の同時期と比較し136パーセントと当初の見込みを上回るペースとなっております。

寄附額増加の要因といたしましては、10月1日の制度改正に伴う「駆け込み需要」が発生していることに加え、ポータルサイトのキャンペーンを活用した効果的なPRの実施や、事業者の皆さまのご協力により返礼品の拡充や内容の充実を進めてきたことが寄与しているものと考えております。

また、本年度は寄附受入の窓口として、新たにポータルサイトを4つ追加し、より多くの皆さまに特産品の魅力が伝わるよう努めているところでございます。今後は、ふるさと納税への関心が高まる時期に合わせ、ウェブ広告の実施も予定しており、より多くの方々に町の魅力をPRし、寄附額の増加につなげてまいります。

■吉田漁港の浚渫

漁港内の浚渫工事につきましては、水産物供給基盤機能保全事業を活用し、計画水深3メートルを確保するため、漁港入口部分から港内に向かって段階的に実施しております。

本年度は8月に契約を締結し、東防波堤周辺の水域を中心に来年3月上旬の完成に向けて工事を進め、漁港の機能保全と船舶の航行の安全を確保することで、地域水産業の振興につなげてまいります。

■吉田漁港機能保全計画の更新

漁港施設の効率的な維持管理などを目的として策定しております、「吉田漁港機能保全計画」につきましては、7月に更新業務委託の契約を締結し、現地調査の準備を進めているところでございます。

今後は、現地調査の結果に基づき、漁港施設の健全度を再度評価した上で計画の更新を行ってまいります。

多様な人々が快適に暮らせるまちづくり

■町内を走る新しい交通

オンデマンド型乗合タクシー“ぎゅっと”カーよしだにつきましては、職業体験型イベント「伝」において、本年度もPRを行いましたところ、ご存知の方や既に利用していただいている方が昨年度よりも多く、広く認知されてきていると実感しております。

本年度の実証運行につきましては、利用実績やアンケートの意見を踏まえ、運行時間を平日夜8時30分まで延ばし、利用者の増加を図っているところでございます。また、7月の「“ぎゅっと”カーよしだデータ読み解き会」の開催に加え、子育て世代に向けた利用促進の試行を計画するなど、本格運行を見据えた取組を

実施し、様々な機会幅広く町民の皆さまから意見を伺い、本町に適した運行形態を模索してまいります。

■初期日本語教室

日本語に不慣れな外国人の皆さまに、日常生活に必要な日本語を身に付けてもらうため、昨年度に引き続き「吉田町はじめてのほんご教室」を実施しております。本年度は11か国54人の外国人学習者の申し込みがあり、日本語を学びたいという意欲の表れを感じております。

教室の運営には、吉田町国際交流協会会員をはじめとした町民の皆さまに加え、新たに静岡産業大学の留学生と町内の日本語学校関係者にも参画していただいております。地域全体で進めているところでございます。

この教室は、11月までに全10回の開催を予定しており、コミュニケーションに必要な日本語をはじめ、日本の生活習慣などを学んでいただくこととなります。

本町といたしましては、こうした学びの場を提供することで、外国人と日本人が互いの文化を理解し、地域で快適に生活できる環境づくりを推進してまいります。

次代を担う心豊かな人を育むまちづくり

■吉田町教育元気物語TCPトリビンスプラン

はじめに、快適な教育環境整備のための「吉田中学校非常用放送設備及び住吉小学校自動火災報知設備改修工事」並びに「自彊小学校及び中央小学校バルコニー改修工事」につきましては、6月に契約を締結し、順調に工事を進めているところでございます。

また、2か年で計画している「中央小学校給水設備改修工事」につきましては、8月7日に制限付き一般競争入札を執行いたしました。入札金額が調査基準価格を下回ったことから、8月26日に低入札価格調査を実施いたしました。調査の結果、契約の内容に適合した履行ができるものと判断し、8月29日に仮契約を締結したところでございます。この工事の契約につきましては、本定例会の会期中に追加の議案提出を予定しております。

■リーディングDXスクール事業

7月16日に信州大学の佐藤和紀^{かずのり}准教授を講師にお招きし、町内全ての教職員を対象とした研修会を住吉小学校で開催いたしました。町外からも120人ほどの教育関係者が参加し、「生成AIの活用による教師自身の情報活用能力の向上と、その先にいる児童生徒の実践的な情報活用能力の育成」についてグループ討議を実施いたしました。次回は、9月8日に中央小学校で開催する予定でございます。

また、9月6日には、学習ホールにおきまして、文部科学省から教育課程課長をお招きし、「教育フォーラム」を開催いたします。変化の激しい社会の中で、子どもたちにどのような学びが必要となるのか、教職員のみならず、保護者や地域の皆さまにも参加していただき、共に理解を深めてまいりたいと考えております。

さらに、本年度も引き続きグーグル合同会社と連携しながらICTに係る事業を展開しており、8月8日には自彊小学校を会場として、教職員を対象とした生成AI活用研修や、基本操作研修を実施いたしました。

学校・家庭・地域が一体となり、デジタルという新たな学習基盤を活用した取組を進めながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現、そして、児童生徒一人一人の確かな学力の向上を目指してまいります。

■吉田中学校における部活動の地域展開

町教育委員会では、令和8年度に3年生となる生徒が部活動を引退する時期を境目としまして、休日の部活動から段階的に地域に展開していくことを目指し、「吉田町部活動の在り方協議会」で議論を進めております。本年度は、7月29日に第1回目の協議会を開催し、地域展開の基本的な考え方などを記載したマニュアル案について協議を行いました。今後、この協議会での意見を踏まえ、マニュアルの整備を進めるとともに、指導者の確保や参加者の募集方法など、地域クラブの運営に必要な事項について協議を進めてまいります。

■中央公民館の非常用電源設備改修事業

本事業は、既設の非常用発電設備の老朽化に伴い、停電時においても施設を継続して使用できるよう、設備を更新するものでございまして、8月に電気設備工事の契約を締結し、令和8年3月の完成を目指し工事を進めてまいります。

行政と住民が一体となって取り組むまちづくり

■静岡産業大学との包括連携に関する協定

本協定は本町と静岡産業大学が、それぞれの知的、人的、物的資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力するとともに地域の課題に適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与することを目的として、7月1日に「吉田町と静岡産業大学との包括連携に関する協定」を締結いたしました。

本協定に基づく連携事項は防災や多文化共生、健康づくりなど多岐にわたっており、先ほど報告いたしました「はじめての日本語教室」におきまして、留学生の母語支援として参加していただいているほか、子ども・若者計画策定へも学生に参加していただいております。

今後においても大学と連携し、持続的な活力ある地域づくりを行ってまいります。

以上、本年度の主な事業の進捗状況についてご報告させていただきました。

皆さまもご承知のとおり、7月20日に執行されました第27回参議院議員通常選挙の結果を受け、国政の構図は大きな変革期を迎えております。

現政権におきましては、少数与党となったことで政局が不安定となり、予算の成立や重要な意思決定に遅れが生じることにより、政策の停滞を招くなど、厳しい政権運営を強いられることが予想されます。

一方、法案審議や予算審議に当たり、野党の協力が不可欠となりますことから、双方の歩み寄りにより、民意が政策に幅広く反映されることや、与野党の合意形成のプロセスを踏まえた上での政策運営が進むことも期待されます。

いずれにしましても、国政の動向を引き続き注視し、もれなく情報の収集に努め、本町が目指すまちづくりに必要となる財源の確保に加え、防災や教育、産業振興といった各分野での連携を図りながら、「豊かで活気にあふれ心を魅了するまち」の実現を目指してまいります。

町民の皆さまをはじめ、議員各位におかれましては、ただいまご報告申し上げました本町の取組に対しご理解をいただき、これまでと変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます、本定例会の行政報告といたします。